
仮面ライダースカル episode0

神羅和刃

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

仮面ライダースカル episode

【Zコード】

Z0461E

【作者名】

神薙和刃

【あらすじ】

正義のヒーローはもう要らない。悪人を苦しめて苦しめて、残虐且つ華麗に処刑するダークヒーローが顕現する！

(前書き)

やつすきました。

これは仮面ライダーとダークヒーローを掛け合わせて、ダークをとことん詰め合わせた問題作です。

- ・仮面ライダーとは正義の味方だ！
- ・毎朝仮面ライダー見てます。
- ・将来のゆめが仮面ライダーな少年少女

は閲覧してはいけません。

それほど仮面ライダーが破綻しております。

それでもよろしい方はどうぞ！

正義は正しことは限らない。

悪は悪いと限らない。

正義のヒーローは
もつ必要ない。

朝 東京

某住宅にて

一ノ瀬雄大は、テレビで犯罪がらみの報道があると嫌そうな顔を必ずする。

父親が警察官であることもあるが、生来の正義感から来るものもあるのだ。

しかし、ピカレスクホラーの代名詞である『スノート』の主人公みたく、犯罪者を殺してまわれば犯罪が減るなどと考えたことは無い。そんな考えは倫理に反する、復讐を助長する愚策だと言つのも彼の考え方だ。

登校中

太陽の光が眩しい。

木漏れ日の影が灰色のアスファルトに木の葉の紋様とコントラストとを形成している。

鳥が鳴く中のんびりと雄大は道を歩く。

その脇スレスレを自転車が通る。

猛スピード。

人を跳ねたら、間違いなく大怪我だ。

周りを見れば不法投棄。

些細な事だ。と周りの人間は笑うだろう。

だが雄大は違う。

愚劣な言い訳と共に、自らはその怒りを外へ溢れ出させるのだろう。

ウザイなどと言われた事は数知れず。

しかし雄大にとつては、果たす義務すら果たさず自らの都合で醜態を晒す馬鹿共が一番うざかった。

信号無視、不法投棄など序の口。

殺人を犯し、心身喪失を装い無罪を勝ち取ろうと画策する犯罪者や、自らのみみつちい欲を満たす為に脱税、天下りを繰り返す老害の官僚共。

全てが幅を効かせる世の中を、雄大は嫌っていた。

しかしこんな世の中を変えることは出来ずに自らの中で未完了の苛立ちが積もるのをただ虚しく感じるだけなのも、雄大の日常だ。

雄大は思う。

誰か、こんな歪んだ世の中を壊してくれと。

できないのならば

どうか俺にその力を貸してくれ。

それで無くとも、どうすれば良いのか俺に示してくれ。

しかしそれに応える存在は、この世の中に無い。

常識とは正しい事に非ず。

大衆が正しいと定めた事柄を正当化するために産まれた言語が『常識』なのだ。

だからこそ、歪んだ日常が横行するのが今の世の中の『常識』。

漫画やアニメの様に

自らが悪かつたなどと悔い改める人間など砂の数粒も存在しないだ
ろ。ひ。

そうして、延々と世界は廻る。

雄大に鬱積した苛立ちもまた変わる事なく。

なぜもいつ、トラブルは劇的なものなのか。

こんな有り得ないトラブルがあるならば、劇的な幸運もあつても良いはず。

帰宅途中、柄の悪いスーツの男達 いわゆるやくざ者に囲まれ、人目の付かぬ廃工場へ車に乗せてこられた雄大。

ポイ捨てや恫喝を繰り返すやくざ者を睨んでいたら、目を付けられこの様だ。

こんな時だけ、雄大は自分のただならぬ正義感を恨む。

「なあ兄ちゃん、言いたいことがあるな」さつきが言ふや

古典的ないちやもんをつけたやくざのコーダー。

雄大はたまらず目をそらす。

にやにやと笑う様と、殺意を孕んだ眼が直視に堪えなかつた。

下卑た笑いを浮かべるやくざ達に囲まれながら萎縮する雄大。

最悪の場合、死を覚悟した次の瞬間だ。

バーン

火薬の弾ける音と共に、スキンヘッドのやくざが頭から血を噴き出し絶命する。

火薬の音や、額に空いた孔から察するに銃撃による即死だろ。

ざわめくやくざたちが辺りを見渡す。
雄大も混乱しつつ、辺りを見渡す。

視線の先にいたのは、バイクに跨る男。
だがその姿はまるで死神だ。

白を基調としたヘルメットはひび割れに朱色が塗られており、さな
がら頭を伝う血で、目の窪みには赤い光が爛々と宿っている。

ヘルメットから生えた触覚は昆虫 特に飛蝗のモノに酷似している
が、ヘルメットのまがまがしさから悪魔の角にしか見えない。

体にフィットするライダースーツには、肋骨を模したアーマーがつ
けられ、巻かれたマフラーは血のような赤。

仮面ライダーだ

だが仮面ライダーのモチーフは飛蝗。

あれは骸骨。

まさにイメージで描く死神の具現化だ。

死神の左手には銃口から白煙を立ち上らせる銃が握られており、あれがスキンヘッドのやくざを射殺した凶器だと容易に推測させる。

怒り狂うやくざたちは銃を抜き応戦しようとするも、死神の銃撃によりバタバタとかかしの様に死んで逝く。

さながら具体的な悪を示し、見せしめとして死ぬのが義務付けられている様に。

死神は跨っているバイクのアクセルを吹かし、一人のやくざに突撃する。

やくざの銃撃を真っ正面から受けつつ、怯まずに突撃する姿は実に異常だ。

「ひつ…ひいーいー!」

たまらず逃げ出そうと後ろを向く男。しかしそれが不味かった。

死神のバイクのタイヤはゴム製では無く、やすりのよみこむと立った装甲をつなぎあわせたものだ。

死神はウイリーを行い、前輪を容赦なく逃げる獲物に叩き付ける。

獲物は肺の空氣を吐き出し、バイクの下敷きとなつた。

「ごぞつざくひつひにいいいいいい！」

やすりのようなタイヤは容赦なく獲物の背中の肉を削ぎ落としてゆく。

奇声を上げる獲物の頬に、削ぎ落とされた肉のかけらがこびりつく。

肉を殺ぎ終わり、次は背骨がチュイーンといつ音と共に削がれてゆく。

白い粉が飛び、中からはみ出る何かの組織を辺りに散らしていく。

激痛に穴という穴から様々なものを垂れ流す獲物。

身をよじらせたくとも、バイクの重さが枷となり動けない。

脊髄をやられて手足の感覚を無くした獲物の頭に、前輪が迫る。

声を上げなくなつた後頭部の髪つきの肉を散らした前輪が頭蓋骨を削りきり、脳に達した瞬間。

「ぬぐえやあああああああああつうつー」

耳をつんざく奇声をあげ、獲物の命は前輪に巻き込まれた脳漿の如く散つた。

常人なら吐き気を催すグロテスクな公開処刑を、雄大は見入つていた。

恐怖と焦燥感に駆られたリーダーに、バイクを降りた死神は鉄拳を喰らわせた。

鳩尾へ鉄拳を喰らつたリーダーは胃液を盛大に撒き散らし悶絶する。

そんなリーダーの足に鎖をくくりつけた死神は、リーダーの車のボ

ンネットへと鎌をくへつつかる。

そして車に乗り込み、挿しつぱなしのキーをひねり、車のマフラーをふかせる。

「お……おい、まさか……」

リーダーの脳裏によるしくない処刑方法が浮かぶ。

責めたリーダーの想像を改めさせるように車はのろのろと進む。

最悪の展開を脱した安心感と、死神の行動の不明確さから呆然と引きずられるリーダー。

しかし車は、不安定に積み上げられた鉄骨の山に進んでいる。

しかも前方ボンネットは開けられたままで。

崩れた鉄骨がエンジンに直撃すれば、破損したスパークガソリンに引火し大爆発を起こすだろつ。

しかも「丁寧に鉄骨の山のそばには、燃料が入っているだろつ」ダム缶が無数に置いてある。

「や、やめひ… やめひおおお！」

情けない泣き声で懇願するリーダーを無視し、死神は車を進ませる。ゆっくり進むのは、死の恐怖をじっくり味わせる為に。

のろのろと進む車はやがて鉄骨の山にぶつかり、頂点の鉄骨が垂直に車の剥き出しのエンジンへと落下する。

派手な破碎音と共にひしゃげたsparkが漏れ出了ガソリンに火花を提供し

ビームおおん

爆炎がドラム缶に引火し、さらに凄まじい爆炎を引き起こす。

さながら悪党への火葬の様に燃え盛る炎の奥に揺らめく影を雄大は直視していた。

正義のヒーローは要らない。
過ちを犯したぶんだけ人は優しくなれるなんて性善説は最早聞き飽きた。

過ちを犯し、人を侵すならばそれなりの罰が必要になる。

盗むな
殺すな
犯すな

人の道を外れ、悔い改める事が無いなら必ずカウンターが死を与える

る。

これは妄想でも空想でもなく、ただの真実だ。

燃え盛る炎を踏みしめて現れる白と黒のコントラスト。
首にまいたマフラーが爆炎になびき、炎の様に広がる。

窪んだ目に輝く紅をより目立たせる白い頭蓋骨の仮面。

悪人の死神。

正義を行わぬヒーロー。

雄大は彼をこう呼ぶ。

「仮面ライダースカル」

【元】

(後書き)

とまあ終わりましたが、実はこれは連載を考えている「仮面ライダースカル」のモノローグですね。

感想や作者のノリにより連載するか否かが決まるので、続きが見た
い方とかいらっしゃれば、感想などよろしくお願ひします。

あと

- ・理想と現実の仮面ライダー。
- ・仮面ライダー鴉

そして連載作品に

- ・Corps Bridge .

がござりますのでそちらも暇つぶし程度に読んでみて下さこませー！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0461e/>

仮面ライダースカル episode0

2010年10月9日00時22分発行